

キャラクター名
ルナリア・ナイトレイ

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス		ワークス	UGN支部長D	カヴァー	ビルオーナー
	ソラリス					
オプション			年齢	19	性別	女性
覚醒	渴望	衝動	自傷	初期侵食率	33 %	
出自	名家の生まれ	経験	平凡への憧れ	邂逅	いいひと(郡深紅)	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	0	1			1	行動値	4
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	6	1	1			8	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉		1
回避			知覚			意志	1		調達		2
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
Liberate Marionette						女王の降臨+狂戦士 ダイス+14個、クリティカル値-1
射撃攻撃	交渉	8r+1		1		恐怖+コンセ
脳侵の錯覚	交渉	22r+1		1		狂戦士+恐怖+コンセ
脳侵の錯覚@100	交渉	27r+1		2		狂戦士+恐怖+コンセ@100

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲: 0 合計回避: 0

所持品	
コネ: UGN幹部	
コネ: 警察官	
コネ: 研究者	
コネ: コーポレート	
コネ: マスメディア	
コネ: 要人への貸し	
思い出の一品	
専門書: レネゲイド	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
超血統(フルブラッド)	P	N		
郡深紅	P 連帯感	N 不安		
(昇華)シナリオ:"グレイファントム"	P 庇護	N 悔悟		
上本荒土	P 感服	N 隔意		
雨宮潤	P 尊敬	N 劣等感		
リリー	P 好意	N 疎外感		
(昇華)月原朝芽	P 好奇心	N 不安		

最大財産P: 20 残り財産P: 10

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:ソラリス	2	2	-	-	-	-	-	
効果: C値を-LV(下限値7)								
女王の降臨	3	5	セットアップ	至近	自身	自動	ピュア	
効果: タイミング:メジャー、難易度:自動のソラリスエフェクトを使用。1シナリオLV回まで								
狂戦士	7	5	メジャー	視界	単体	自動	80%	
効果: 対象が次に行うメジャーアクションの判定のクリティカル値-1、ダイスを+Lv×2個								
絶対の恐怖	1	3	メジャー	視界	-	対決	-	
効果: 攻撃力+Lvの射撃攻撃を行う。装甲値無視								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

○経歴
麗しの容貌を持ち、裕福な家に生まれた少女は、異能力が備わったと解るや否や両親の庇護のもと手厚い指導を受け、UGNの支部長へと配属された。
「お前は支部長としてそこに立ち、微笑んでいればいいんだよ」
そうして一年が過ぎたころ、彼女に届いたのは両親の訃報。

——少女は、周囲が思うよりもずっと聡明であった。
両親が後ろ暗いことをしていたことも、自分の支部長就任に作為があったことも、周囲が自分をどう思っているかも解っていた。
お飾りのお人形と呼ばれ、したことといえば戦いに赴く者への祝福程度。
残されたのは一年間支部長を務めあげたという空っぽの実績と、冷やかな目線。
操り糸に括られていた少女は——
「ああ、もう！知るもんですか！誰も彼も身勝手ばかり！」
ぶちりと、自らその枷を引き千切ったのだった。

○概要
口を閉ざして佇んでいる分には人形めいた美しさを漂わせるAPP17程度の美少女。
母親が日本人と西欧系の血を引いており、父親が西欧系で外国の血が濃いものの、生まれも育ちも日本。
内側には年相応の好奇心と、反発心と、乙女心と、そんなようなものをしまいかんでいる。
両親に逆らうことをよしとせず、いわば言いなり状態でお人形支部長を務めてきたが、盾であり枷であった両親の死後は「好きにやってみよう」と思い直し始めた。
両親を嫌ってはおらず「可愛いだけの着せ替え人形」ではない自分の何かを認めて期待して欲しいと思っていたが、終ぞ叶わなかった。
周囲からの評価も厳しく、また両親の行いの悪さゆえに親戚からも疎まれていた自覚があり、そのうえで空っぽの実績がある以上即刻役職から降ろされることもままならない現状を冷静に把握している。